

■ 学校の共通目標

授業作り	<p>重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ではめあてを明確にし、振り返りをしっかり行うことで、学習への動機や内容を自分で意識し、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>・確かな学力向上のため、ICT 機器を効果的に活用して個別最適な学習の推進し、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul>
環境作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「愛日スタンダード」を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導の徹底を行う。</li> <li>・hyper-QU の活用による児童理解をすすめる。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境づくりを行う。</li> </ul>

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<p><b>国</b>①言葉の面白さ、楽しさを味わいながら文字や文章の読み書きの確実な定着を図る。</p> <p>②相手の話をしっかり聞くとともに、自分の考えを話せるようになる。</p> <p><b>算</b>③数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。</p>	<p>①②一単位時間の中に、話す、聞く、読む、書く活動をバランスよく設定。</p> <p>①②考えを伝え合う活動の充実。(ペアトーク)</p> <p>③具体物、半具体物、図、言葉、数、式、表を用いて自分の考えを表現する活動の設定。</p> <p>③基礎的な計算練習の時間の確保。</p>
2 学 年		<p><b>国</b>①読書活動を充実し、語彙力の向上を図る。</p> <p>②自分の思いや考えが明確になるように簡単な構成や内容のまとまりを意識し、工夫して書いたり話したりすることができるようにする。</p> <p><b>算</b>③具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方を十分に理解し、正確に計算できるようにする。</p> <p>④数量や図形にすすんで関わり、生活や学習に生かすことができるようにする。</p>	<p>①読書活動の充実。</p> <p>②自分の思いや考えを表現する活動の充実。(ペアトーク、トリオ)</p> <p>③具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて友達と互いに自分の考えを表現し伝え合ったり学び合ったりする場の設定。</p> <p>③基礎的な計算練習。</p> <p>④場面とつなげて考えたり、生かしたりできる場の設定。</p>

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習漢字を活用する意識の向上と、新出漢字の習得が必要。</li> <li>・語彙力を高めて、言語感覚を豊かにしていくことが必要。</li> <li>・相手の意見や考えに耳を傾け、自分の考えと比較して相違点をとらえることが必要。</li> <li>・自分の書いた文章を見返すときに他者意識をもたせることが必要。</li> <li>・算数の基礎的な学習事項についての反復練習が必要。</li> </ul>	<p>国①計画的に進出漢字の学習を行い、習得につなげる。漢字の読み書きに加え、筆順の定着を図る。</p> <p>②語彙力の向上と読解力の向上を図る。</p> <p>③自分の思いや考えを分かりやすく相手に伝えることができるようにする。</p> <p>算④数や図形、グラフなどにすすんで関わり、学習に生かそうとすることができるようにする。</p>	<p>①1週間に学習する内容を児童の学習状況に合わせて設定。</p> <p>②図書の時間の活性化や国語辞典、「言葉のたから箱」の活用の強化。</p> <p>③相手や目的に応じた言葉の選択や、文章の組み立てについてスピーチや短作文など表現活動の習慣化。</p> <p>④日常生活で数量を意識させたり、各教科で意図的に図形やグラフなどを活用させたりする場面の設定。</p>
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを相手に豊かに伝える語彙力の向上、伝えようとする意識の高まりが必要。</li> <li>・漢字など、既習の知識を活用する意識の向上が必要。</li> <li>・話し手を見たり、反応したりしながら聞き、自分の考えと比較して相違点や類似点を捉えることが必要。</li> <li>・文章や原稿を見返し、他者意識をもつことが必要。</li> <li>・既習内容の定期的な反復練習が必要。</li> </ul>	<p>国①自分の考えを、既習の表現技法や豊富な語彙、既習の漢字を活用して相手に伝わるように表現できるようにする。</p> <p>②話し手の方を向いて、頷いたり相槌を打ったりしながら、自分の考えとの違いや似ているところを明確にできるようにする。</p> <p>算③分からないところを自覚し、改善するために、自主的に反復練習できるようにする。</p> <p>④数や図形、グラフなどにすすんで関わり、学習に生かそうとすることができるようにする。</p>	<p>①図書の時間の活性化や、国語辞典の活用の強化。</p> <p>①ノート指導の充実と、よいノートの紹介。</p> <p>②朝の日直のスピーチなどで聞く時間の確保。</p> <p>③めあてと振り返りの意識付け。</p> <p>③デジタルドリルやタブレット端末の有効活用。</p> <p>④学習したことを価値づけ、今後の学習に生かす場面の設定。</p>
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力の向上</li> <li>・自分の文章を読み返すことが必要。</li> <li>・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決める力が必要。</li> <li>・文章をよく読み、問題に取り組むことが必要。</li> </ul>	<p>国①様々なジャンルの本に触れ、表現方法や語彙力の向上を目指す。</p> <p>②同じフレーズの繰り返しや主述のねじれを見つけるために、読み返すことを習慣化する。</p> <p>③毎日の気づきを自分の言葉で書き溜めておくことで、自分の引き出しを増やしたり、物を見たりする視点を養う。</p> <p>算④文章問題の読み方を定着させる。</p>	<p>①読書活動の充実。</p> <p>②推敲のポイントを示したカードの作成。</p> <p>③朝学習での作文の時間の確保。</p> <p>④問題文にライン。</p> <p>④キーワードの取り出し。</p>

<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙を豊かにし、話したり文章を書いたりする中で使うことのできる力が必要。</li> <li>・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることのできる力が必要。</li> <li>・問題解決の過程や結果を、目的に応じて数学的に表現して伝え合う練習が必要。</li> </ul>	<p>国①説明的文章、物語、エッセイ、伝記、俳句、短歌、詩など様々な種類の文章に触れ、語彙を増やしていけるようにする。</p> <p>②話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したりしながら話し合ったり、書いたりする活動を計画的に行う。</p> <p>算③数学的な表現を用いて、論理的に説明し、伝え合う活動を充実させる。</p>	<p>①朝学習、読書活動の充実。</p> <p>①学習の中で、様々な種類の文章に触れる機会の設定。</p> <p>②話し合いの視点を明確化。</p> <p>②タブレット端末を活用した交流やまとめ。</p> <p>③図や式、言葉など様々な方法で思考を表現。</p>
<p>特 別 支 援</p>		<p>① 休みの日にあったことや行事のことなどを文に書く機会を増やし、考えたり書いたりすることに慣れる。</p> <p>② 読書タイム、読み聞かせなどを通し、本に触れる機会を増やす。</p> <p>③ 生活单元、総合などでタブレット端末を使い発表する。</p> <p>④ 日常生活の様々な場面を想定し、実際の生活場面で知識や計算を活用できるように場面を設定する。計算は忘れないよう、継続的に学習する。</p> <p>⑤ 個に応じた課題、教材を作成する。</p>	<p>①週末の日記の課題、行事のまとめや発表の充実。</p> <p>②図書の時間、読書タイムの活性化。</p> <p>③タブレット端末の活用。</p> <p>④具体物の操作を取り入れた学習。</p> <p>⑤小集団学習と個別学習の充実。</p>